

【主題】学校の業務改善を推進するための実践研究

【副題】「働きやすさ」と「働きがい」の両面からのアプローチ

【学校・団体名】福井県勝山市立荒土小学校

【役職名・氏名】校長・前野 英治

1 主題設定の理由

これからの学校には、子供たちが主体的に社会に向き合って関わり合い、その過程を通して、一人一人が自らの可能性を最大限に発揮し、より良い社会と幸福な人生を自ら創り出していける資質・能力を育成することが求められている。

そのためには、教員が総合的な指導を担う日本の学校の特徴を生かしつつ、日本のこれからの時代を支える創造力を育む教育へと転換するとともに、複雑化・困難化する課題に対応できる「次世代の学校」を構築していく必要がある。

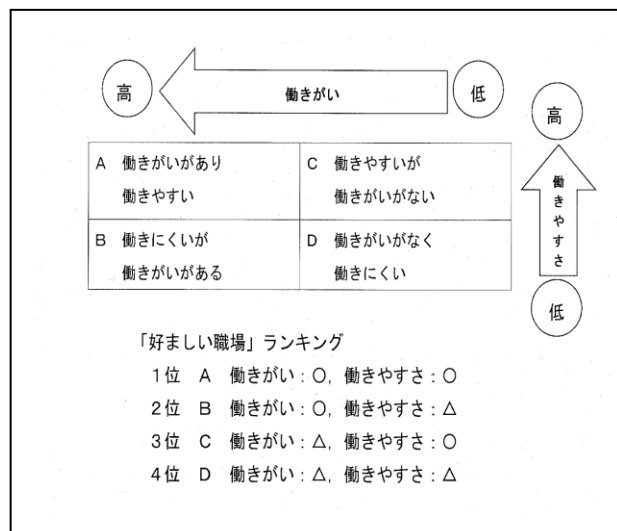
教職員体制の整備充実を図るとともに、「チーム学校」の実現を図ることで、教員が一人一人の子供に向き合い、丁寧に関わりながら、質の高い授業や個に応じた学習指導を実現することにより、子供たちに必要な資質・能力を確実に身に付けさせることができる学校としていく必要がある。

また、教育の専門性を生かし、学習指導や生徒指導等を担い、子供たちの状況を総合的に把握した指導に専念するとともに、子供たちの学びの変革に的確に対応し、お互いに学び合い、高め合う教員を目指し、必要な環境を整備していく必要がある。

保護者に尊敬され、地域に信頼される存在として、また、将来教員になりたいと子供たちから思われる存在として、教員が誇りや情熱を失うことなく、意欲・やりがいを高め、その使命と職責を遂行し、健康で充実して働き続けることができるよう、働き方を改善することで、ワーク・ライフ・バランスの実現を果たしていく必要がある。

2 研究の仮説

【仮説】「教職員の働きやすさと働きがいの両方を改善することによってモチベーション高く自分の職務を遂行するようになり、結果として児童の学校生活満足度は高まるだろう。」



上の図は、ある機関が職種を問わず広く「離職率と働きやすさ・働きがいの関係」についての意識調査の結果である。

最も離職率が低いのは、「働きがいを感ずることができて働きやすい職場」である。

次に、離職率が低いのは「働きやすさには課題があるものの働きがいを感ずることができ職場」である。

3番目に離職率が低いのは、「働きがいに課題があるものの働きやすさを感ずることができ職場」である。

最も離職率が高いのは、「働きがいに課題がある職場」である。

教員には、子どもや保護者の笑顔が見たくてこの仕事を選んだ人が多い。先生という魅力いっぱい仕事にやりがいを感ずて職業を選択しているのである。そこで、本校では職員の働きやすさの改善に取り組むだけでなく、職員の働きがいの向上にも焦点を当てた取り組みを実施した。

3 研究の方法

- (1) 給食の時間に職員が休憩を取ることができる給食指導体制を工夫する。(働きやすさ①)
- (2) 教育DXを推進するための特任チームを新しく設置する。(働きやすさ②)
- (3) 全職員の「やりたい」をちりばめたワクワクスクールプランを作成する。(働きがい①)
- (4) 言葉の力で全職員のモチベーションをこまめに高める。(働きがい②)

4 研究の経過

	期日	内容	備考
1	R3年度～	スクールプラン	ワクワクスクールプラン作成の取組スタート
2	R3年度～	ありがとうメッセージ	通年の「校長のありがとうメッセージ」スタート
3	R4年度～	給食指導	給食時に休憩が取れる指導体制スタート
4	R5, 4, 5	職員会議	教育DX推進チームの設置
5	R5, 5, 8	研究会	タブレット研修
6	R5, 5, 15	研究会	研究のテーマ:「タブレットを効果的に活用した授業づくり」
7	R5, 5, 29	研究会	デジタルデバイスソップ教育研修
8	R5, 6, 1	家庭学習	高学年: 毎日のタブレットの持ち帰りスタート
9	R5, 6, 27	指導主事訪問	3年国語「ことわざ」タブレットを活用した授業
10	R5, 6, 27	指導主事訪問	5年算数「合同な図形」タブレットを活用した授業
11	R5, 9, 1	家庭学習	中学年: 毎日のタブレットの持ち帰りスタート

5 具体的な取り組み

まず、職員の「働きやすさ」に関する取組として、給食の時間に職員が休憩を取ることのできる給食指導体制の工夫と、DXを推進するための特任チームの新設をあげる。

(1) 給食の時間に職員が休憩を取ることができる給食指導体制の工夫



本校では、全校児童がランチルームで一斉に給食を食べている。その特色を生かして、職員が給食の時間にひと休みできるような指導体制を工夫した。

まず、職員をAグループとBグループの二つに分ける。

奇数日。Aグループがランチルームで給食指導をして、Bグループは職員室で給食を食べながら休憩を取ることができるようになった。

偶数日。今度は、Bグループがランチルームで給食指導をして、Aグループが職員室で給食を食べながら休憩を取る。

このようにして、1日おきにお昼に児童の指導からしばし離れて休憩を取る時間を確保できるようにした。

(2) 教育DXを推進するための特任チームの新設

令和5年度から、校務分掌にDX推進チームを明確に位置づけた。メンバーは、教頭・教務主任・研究主任・情報主任・ICTに堪能な職員2名の計6名である。

DX推進チームの主な役割は、校務支援システムを全職員が活用できるように支援することや、授業におけるタブレットの活用を支援することである。また、DXに関する校内研修会を開催して全職員のICT活用に関するスキルアップをリードしている。

〈タブレットを活用した授業〉



〈校内におけるタブレット活用研修〉



次に、職員の「働きがいの高揚」に関する取組として、全職員の「やりたい」をちりばめたワクワクスクールプランの作成と「言葉の力で全職員のモチベーションをこまめに高める取組の工夫」をあげる。

(3) 全職員の「やりたい」をちりばめたワクワクスクールプランの作成

年度初めの職員会議で校務分掌が決定された後、全ての職員と管理職との面談を実施して、それぞれの「やってみたいこと」や「チャレンジしてみたいこと」について聞き取りを行った。

その聞き取った「やってみたい」や「チャレンジしてみたい」を全てスクールプランに入れ込んでいく。最後に、スクールプランに必ず入れるべき目標を加えて本年度のスクールプランが完成させた。

自分の立てた目標がスクールプランに掲載されることによって、職員はたいへん意欲的にかつ責任感を持ってそれぞれの職務の遂行に当たっている。



職員の「やりたいこと」「チャレンジしたいこと」

(確かな学力)

- ・ 子どもの発表を中心にした授業づくり
- ・ 相互研鑽による授業改善の推進
- ・ 朝読書の継続と月毎の読書企画の実施
- ・ 読書に関する掲示とブックコーナーの充実
- ・ タブレットを活用した個別最適な学びの研究

(豊かな心)

- ・ 児童が自ら考え実行する自治的な児童会活動
- ・ 学校内外の環境整備 (花壇・農園)
- ・ デジタルシティズンシップ教育の導入
- ・ SNS機器の正しい使い方の指導の徹底
- ・ あらどスマートルール遵守の徹底
- ・ 安全安心な学級風土づくり
- ・ 人権教室の開催

(健やかな体)

- ・ 体育委員会主催の体育イベントの開催
- ・ 外遊びの推奨と遊ぶ環境の整備と充実
- ・ 目と歯の健康指導の充実
- ・ 児童にとって居心地のよい保健室づくり
- ・ 健康を守るための正しい姿勢指導の徹底

- ・ 地産・地消の積極的な推進
 - ・ 食欲をそそる色彩や形を工夫した給食の提供
 - ・ 早寝・早起き・朝ご飯の励行
- (信頼される学校)

- ・ 気がかり児童の情報共有のさらなる充実
- ・ 知的学級と自情学級の合同校外学習の実施
- ・ 個に応じて考える力を伸ばす通級指導
- ・ 安心安全な学校づくり
- ・ 自転車に乗る際のヘルメット着用の徹底
- ・ 教育DXの推進

(4) 言葉の力で全職員のモチベーションをこまめに高める取組の工夫

① 職員のその一週間の頑張りやチャレンジを「ありがとうノート」にメモする。



② 提出される週案等に「校長からのありがとうメッセージ」を記入して、毎週、全ての職員に感謝の気持ちを伝える。



③ 通年で全ての職員の頑張りやチャレンジを一週間ごとに褒めたり励ましたりすることによって、職員のモチベーションのこまめな高揚に努める。

校長の「ありがとうメッセージ」の例

- ・ デジタル・シティズンシップ教育の導入、ありがとう。
- ・ タブレットの使い方の校内研修会を開催していただき、ありがとう。
- ・ 子どもの読書活動文部科学大臣表彰受賞、さまざまな取り組みをありがとう。

- ・リレーでバトンを落として泣きじゃくる〇〇さんのフォロー、ありがとう。
- ・ランチルームでの〇〇さんの嘔吐、すばやく対応していただき、ありがとう。
- ・いつも、グラウンドで子ども達と遊んでくれて、ありがとう。
- ・3年生の〇〇さんの困り感に、親身になって寄り添っていただき、ありがとう。
- ・持ち前のユーモアで、いつも職員室を明るくしていただき、ありがとう。

- ・進んでタブレットを使って学習している。93%
- ・自分にはよいところがある。92%
- ・早寝・早起きを心がけている。91%
- ・読書が好きである。90%
- ・体を動かしたり運動するのは好き。90%
- ・いじめがなく仲良く過ごしている。90%
- ・家の人と学校についてよく話す。89%
- ・授業で意見や発表を述べている。86%
- ・地区の行事に参加している。82%
- ・学校生活に不安や心配がない。78%

6 成果と課題

(1) 成果

このように令和3年度から先生方の働きやすさを改善するだけでなく先生方が働きがいを感じることができる職場づくりを推進したところ、先生方がどんどん元気になっていった。

そして、本校の先生方が元気になると本校の子ども達もどんどん元気になり、それに伴い児童対象の生活アンケートの結果も改善傾向が続いている。

児童生活アンケートの集計結果を分析したところ、荒土小学校の児童の学校生活満足度（全ての設問の肯定的な回答の割合を合計してその平均値を算出した数字）が年々右肩上がりが高くなり、令和2年度の80%から令和5年度には94%と14%も向上した。

学校生活満足度	令和2年度	80%
	令和3年度	89%
	令和4年度	93%
	令和5年度	94%

〈令和5年度 児童生活アンケート結果〉

- ・給食はおいしい。100%
- ・自転車に乗る時にヘルメットをかぶる。100%
- ・学校は楽しい。99%
- ・荒土町が好きである。99%
- ・行事は楽しい。99%
- ・先生は生活のきまり等を教えてくれる。98%
- ・正しく安全にメディアを使っている。98%
- ・みんなで何かをするのは楽しい。98%
- ・授業では調べたり考えたりする。97%
- ・先生はがんばったことをほめてくれる。97%
- ・話をしたり遊んだりする友だちがいる。97%
- ・目の体操など、健康に気をつけている。97%
- ・明るく元気にあいさつしている。96%
- ・学校のルールやマナーを守っている。96%
- ・授業は楽しくてわかりやすい。95%
- ・学校は安全で安心して生活できる。95%
- ・朝ごはんを食べている。94%
- ・先生は話やなやみを聴いてくれる。93%

本校の児童はほとんどの項目で肯定的な回答の割合が高く、落ち着いて学習に取り組み、楽しく学校生活を送っている様子がうかがえる。

特に、「学校は楽しい」と答えている児童の割合が99%と高く、「学校へ来れば何か楽しいことが待っている。」「学校にはワクワクすることがある。」「自分が成長している実感がある。」等、児童にとって学校が魅力的な場所となっているようである。

また、本校ではポジティブ教育を推進しており、「自分にはよいところがある」についての肯定的な回答が、令和2年度は69%だったが、令和3年度には82%、令和4年度には87%、令和5年度にはついに92%と90%を越えた。

また、「読書は好きである」については、「先生のおすすめ本の紹介コーナー」等の月毎の読書企画の実施等により、肯定的な回答が令和2年度は70%であったが、年々、改善傾向が続き令和5年度には90%に到達した。なお、本校の子ども読書活動推進のための積極的な取り組みが認められ、令和5年度子ども読書活動優秀実践校文部科学大臣表彰を受賞した。

(2) 課題

① さらに働きやすさを改善する取組の実施

この他にも、毎日の終礼の廃止や下校時間の繰り上げ等によって、放課後の教材研究の時間を確保しているが、他にもっと何か工夫できないかどうか、他校の斬新的な取組の中で取り入れられそうなものがあれば積極的に取り入れていきたい。

② なおいっそう働きがい高める取組の実施

先生には、子どもや保護者の笑顔が見たくてこの仕事を選んだ人が多くいらっしゃる。子どもといっしょに未来に思いをはせることができる先生という魅力いっぱいの仕事に、この上ないやりがいを感じているのである。

先生方が元気だと、子どもも元気になる。先生も子どもも元気だと、学校全体が元気になる。

先生方に、日々の自分の仕事に誇りと働きがいを感じてもらえるよう、全国の先進事例を積極的に取り入れて、働きがいと満ちあふれる職場づくりをなおいっそう進めていきたい。